

ロジャー・メイヤーこだわりの ニューコンセプト・ドライヴァー&スタジオ・リミッター シナジー・シリーズ/RM 58LIMITER

まだエフェクターという呼び名すら一般的でなかった60年代からジミー・ペイジ、ジェフ・ベックらブリティッシュ・ギタリストへエフェクターを開発、中でもジミ・ヘンドリックスのエフェクター開発し、その後ジミのレコーディング、ステージでのサウンド・メイクに大きく関わっていた事で有名なエンジニア、ロジャー・メイヤーによる新たなアイデアによるドライヴ系エフェクタとスタジオ・クオリティーをフロア・タイプに凝縮させたハイ・スペックなりミッターが登場した。

(文：谷川史郎)

シナジー・シリーズ デュアル・バンド・ディストーション

シナジーというのは「相乗効果」という意味で、1台のボックスにハイ・バンド(高域帯)とロー・バンド(低域帯)を別々の回路でディストーションを作りミックスしてドライヴ・サウンドを作り出すという、独自のアイデアによるニュー・タイプのディストーション・エフェクター。これは、かつてジミ・ヘンドリックスとロジャーが、スタジオでジミが求めるサウンドへの試行錯誤している時の手法で、ハイとローを別々の回路にするというアイデアはここから生まれている。

各モデルには、それぞれロジャー・メイヤーを代表するディストーション・モデルの回路が2タイプづつ内蔵され、ミックスによる新たな音作りが可能になっている。各モデルのドライヴ回路は「VOODOO-XX」(VOODOO-1+Voodoo-Bass)、「VOODOO-TT」(VOODOO-1+Voodoo-Boost)、「Voodoo-Bass 2」(Voodoo-Bass+Voodoo-Bass2 Original)、「KURO KAGE」(spitfire+Mongoose)となっている。ギター/ベースから入力されたシグナルは、スプリッターによって高域と低域に分割され、高域用のドライヴ回路と低域用のドライヴ回路に分けられ、再びミックスされてアンプへとアウトプットされるが、高域、低域用の各ドライヴ回路には、独立したイコライザーとドライヴ・レベルが用意されているため、帯域別にディストーションの深さとトーンを作る事が可能で、これによって、それぞれに内蔵されているエフェクター単体では得られないシナジー・シリーズならではのサウンド・メイクを作り出す事ができる。

2つのドライヴ回路のバランスを 自由に設定できる ミックス・コントロール

これらの4モデルに共通して、本体背面に用意されて

いるコントロールにアウトプットとミックス(バランス)ツマミがある(写真1)。このコントロールは、ハイ・バンド側のドライヴ・サウンドとロー・バンド側のドライヴ・サウンドのバランスをとるためで、グリーン色のツマミを正面にしてセンター位置でハイ/ロー各ドライヴ・サウンドが1:1でミックスされ、右方向にツマミを廻して行くにしたがって、ロー・バンド側のドライヴ・サウンド、センター位置から左方向に廻して行くくとハイ・バンド側のドライヴ・サウンド寄りに変化して行く。(例えばVoodoo-TTを使いロー側のドライヴ量を少なめにし、ミックス・バランスをハイ寄りな設定でクリーン・サウンドのアンプによって作る、60年代のレトロなファズ系の歪み)

オールラウンドで使用できそうなバランスの良いディストーション・サウンドを基本とするVOODOO-XXでは、2つのドライヴ・レンジで基本的な歪みサウンドをセッティングし、ミックス・コントロールによってトーン全体の明るさを決定してやるなど、ハイ、ロー各ドライヴに用意されているドライヴ・レベルそしてEQコントロールとミックスの兼ね合いによって、非常に幅広いトーン・キャラクターを作り出す事ができるようになっている。



写真1 アウトプットとミックス(バランス)ツマミ

使用する環境に合わせ インピーダンス・マッチが可能な HWアウトとBFアウト

どのモデルもアウト・プットは、HW OUT、BF OUT2、BF OUT3の2系統用意されている。HWアウトはハード・ワイヤード・アウトと呼ばれ、バイパス時は、ギター/ベースなどからのシグナルがエフェクト回路を通過せずにスルーで出力される。BFアウトのBFはバッファ回路を経由したアウトで、バッファとは、簡単にいうとエレキ・ギターやエレキ・ベースのようなハイ・インピーダンス・タイプの出力シグナルをロー・インピーダンス出力に変換する回路で、エフェクターを多く使用したり、長いケーブルを使用するなど音質の劣化を抑えたい場合、小さなライブ・ハウスなど照明からの影響によるノイズへの対策などには、このバッファ・アウトからロー・インピーダンスで出力すると良いだろう。バッファ・アウトは2系統装備されているので、2台のアンプで出力する場合や、どちらかをチューナー・アウトにすることも出来るなどスプリッターとして使用できる(写真2)。HWアウトから出力されている時にはバッファ・アウト(OUT2、3)からは信号は出力されない。



写真2 HWアウトとBFアウト

RM 58 LIMITER

ファズなどコンパクト・エフェクターだけでなくスタジオ・コンソール、アウトボード・エフェクトの設計に携わるなどミュージック・シーンでのイノヴェーターとも呼ぶべきロジャー・メイヤーによって70年代にニューヨークでカスタム製作され当時のトップ・スタジオの多くで採用されていた伝説のスタジオ・リミッターがフロア・タイプになって登場した。



価格：10万2,900円

VOODOO-XX



価格：3万7,800円

ロジャー・メイヤーの代表機種の一つであるVOODOO-1をハイ・バンド側、低域のロー・バンド側には極大なファズ・サウンドで知られるVoodoo-Bassをマウント、ファズ系のキャラクターを持ちながらもディストーションとしても使いやすい歪みを持つVOODOO-1の歪みとファットな低域での歪みというワイド・レンジでパワフルな歪みをミックスする事ができる。ハイ・バンド側のドライヴ・レベルを下げめに設定しミックス・バランスで高域では歪みを抑えめに、低音弦側では太くパワフルなディストーションを作り出すなど豊かな低域の歪みとソリッドな歪みの両方を得たい場合にはお薦めだろう。

KURO KAGE



価格：3万7,800円

ハイ・レンジ側にはハイゲインながらもトラディショナルな真空管アンプの歪みのような暖かさを持ったロジャー・メイヤーのラインナップからspitfireのドライヴ回路をマウント、ロー・バンドにはしっかりとしたボトム・サウンドを持ったMongooseからのドライヴをマッチングさせたモダン・ディストーション系のモデル。スピットファイアによる粒立ちのよいアタック感とマングースの持つ独特のロー・ミッドによる組み合わせはストレートなロック向きモダン・ディストーションを基本にデュアル・ドライヴならではのレンジ別に作り出す歪み感やバランスなど他のディストーション・エフェクターでは得られないひと味違った歪みサウンドを得る事ができる。

VOODOO-TT



価格：3万7,800円

伝統のファズ・サウンドを現代のアンプなどでもコントロールしやすくしたVOODOO-1をハイ・バンド側に使用、低域側ロー・バンド用としてブースターとオーヴァー・ドライブの中間的なブースト系の滑らかなファットな歪みをキャラクターとするVoodoo-Boostをマウントしブルー・オーヴァー・ドライブ・サウンドからファズ・トーンまでをカバーするニュー・タイプのカップリング・モデル。アンプ側サウンド・メイクとのマッチングによって独特のクランチ感を持ったコード・サウンドから60年代ファズ・タイプまで幅広いドライヴ・サウンドを作り出す事ができる。

Voodoo-Bass 2



価格：3万7,800円

ハイ・バンド側にパワフルでファットな歪みでベース・レンジをカバーするVoodoo-Bassをマウント、ロー・バンド側にはさらに低音域をパワー・アップさせるため設計された専用回路Voodoo-Bass2 Originalをマウントした充実のロー・エンド・ドライヴが作り出せるモデル。BASSとネーミングされているがギター/ベースどちらにも使用できるためギターでのロー・チューニングによるヘヴィー・サウンドからフレーズの音域によってドライヴ感に変化が付けられるハイ・クオリティーなベース用ディストーションとしてなど低音重視でのドライヴ・サウンドを求めるプレーヤーには絶対お勧めだ。

デジタル対応へと進化

70年代オリジナル・リミッターの持つスムーズで自然なコンプレッション、原音を損なわずナチュラルに再現するクラスAオーディオ・サーキットなど当時のオーディオ・クオリティーを忠実に継承しながら現在のデジタル・レコーディングにも対応するよう広いヘッド・ルームそしてライン・レベル(+4db)、楽器/民生オーディオ・レベル(-10db)入出力対応、ライブでの使用を可能にする本体バイパス/オン・スイッチの装備などスタジオからホーム・レコーディング、そしてステージでも使用できるなど大きく進化を遂げている。使用しての第一印象は、オーディオ・シグナル、楽器のどちらの入力でもスレッシュホールドに対してリミッターの掛かり具合が非常にスムーズでクセが無いことだ。アタック・タイムとリリース・タイムは、あらかじめメーカー側で最適なポイントで6タイプにプリセットされていることもあってリミッターのセッティングにあまり慣れていない人にも短時間で各コントロールの効果とスグに好みのセッティングを見つけている事が出来るだろう。リミッターの効果と判りやすい大きなVUメーターも良い発想だ。



シンプルだが、プリセットの設定も最適なアタック&リリース

懐かしさも感じるが大きくて判りやすい大型VUメーター